

農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

タイトル 「現場に出向く事業体制」の機能向上

JA名 びばい（北海道）

1 動機 （経緯）	農業生産力の向上による地域農業の経営基盤強化及び組合員に対する営農支援体制の構築に向けた取り組みとして、第8次農業振興基本計画（平成23～25年の3か年）において、「出向く事業体制」を掲げ、担当地区割による定期的な組合員訪問を開始しました。 平成26年から3か年の第9次農業振興基本計画においても本取組みを継続しています。
2 概要	（1）所得確保・コスト軽減・クリーン農業・地域振興への各取組みを展開している中、各部・課が横断的に連携し、組合員の声や各種情報の共有化による事業への反映と職員資質向上に向けた取組みを実践しています。 （2）組合員の生産性と所得の向上を目指し、営農支援システムを開発し当該システムの活用により営農情報を一元化し分析されたデータの有効活用に取り組んでいます。 【具体的取組】 ◎生産実績表の企画・立案・集計 ◎生産履歴の企画・立案・集計 ◎施肥設計システム連動企画 （3）巡回体制についてJAの管内を5地区5班で、各班は各課からの職員10名で構成し、うち2～3名体制で営農情報の提供や収集を中心とした巡回訪問を行っています。 月1回、月例会を開催し、JA全部署の部長が参加するJA挙げての取組みとしています。 月例会の内容は、各チーム長・班長による巡回内容の報告と次回の巡回テーマの提案等です。 巡回は月に1回を基本とし、フォローアップや再訪問が必要な場合は追加訪問を実施しています。
3 成果 （効果）	（1）営農情報の提供を中心としたテーマによる巡回の中で、JA融資の資料提供や部署間の情報共有等によりこまめな対応を行い、農業資金の需要及び資金ニーズの掘り起こしが実施されています。 （2）組合員戸数が減少している状況において、出向く事業体制実施の平成23年以降は、前向き農業資金や生活資金ともに本取組み実施前よりも融資実行額が増加しており、組合員との関係強化による囲い込みがなされています。
4 今後の予定 （課題）	より高度な取組みとするべく、組合員へのアンケートの実施等を含め、年度毎に取組み内容における成果・結果等の協議を継続していきます。